

Sen'i Gakkaishi
(Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan)

繊維学会誌

特集〈防 虫〉



2016 Vol.72 3

一般社団法人 繊維学会

「確かな技術と信頼のカケン」をモットーに、研究開発に取り組んでいます。



業務協力契約を締結しました



一般財団法人カケンテストセンター（略称カケン）と一般財団法人日本文化用品安全試験所（略称ブンカケン）は、平成28年1月27日付で業務協力契約を締結しました。

主として繊維製品の試験検査を国内や海外の23拠点で展開するカケンのネットワークと、玩具や家庭用品、文房具、家具、電気製品など様々な日用生活用品の安全性試験等を行うブンカケンの広範な試験対応力を活かして、ワンストップのトータル品質管理サービスをご提供します。これからの両試験機関のサービスにご期待下さい。

一般財団法人 **カケンテストセンター** 業務部 ☎ 03-3241-2545

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-4-20 三井第二別館4F

日本化学繊維協会 Web サイトのご案内

日本化学繊維協会では“化学繊維”に関する情報発信の一環としてWebサイトを開設しています。

日本化学繊維協会 JCFA Japan Chemical Fibers Association

炭素繊維協会 JCMA

日本化学繊維協会と炭素繊維協会は2014年7月1日に統合しました

会員専用ページ English

Google カスタム 検索

ニュース 統計資料 よくわかる化学せんい 未来をつくる化学せんい 日本化学繊維協会について

JCFA 日本化学繊維協会
Japan Chemical Fibers Association

化学繊維の未来を見つめて..

日本化学繊維協会は、
日本化学せんい工業の健全な発展をはかるためにつくられた
化学せんいの製造メーカーと経緯業者の団体です。
日本の化学せんいの将来をみつめて
その発展のためにあらゆる角度から総合的な活動をしています。

プレスリリース press release

2016.1.14 内外の化学繊維産業動向(2015年) NEW
2015.12.29 化学繊維の生産消費月別データ NEW
2015.12.29 化学繊維の生産消費の概況(2015年11月) NEW
2015.12.29 内外の化学工業動向(2015年第4四半期) NEW
2015.11.29 化学繊維産業・広域の概況(2015年10月) NEW

業界ニュース Industry News

2016.1.14 最近の繊維産業の動向(2015年10月) NEW
2016.1.12 (世界) 経緯、産業用で付加価値的に NEW (192 KBCB) NEW
2015.12.21 (中国) 繊維業界、5年での200億の生産目標を達成 NEW (192 KBCB) NEW
2015.12.11 (インド) 3M、MicroPact化学繊維、インドの市場に参入 NEW (192 KBCB)
2015.11.30 (中国) 化学繊維産業の発展と消費が加速 NEW (192 KBCB)

インフォメーション Information

2015.7.23 KASEN TOPICS Vol.24「高機能繊維素材」を掲載しました。
2015.5.26 KASEN TOPICS Vol.22「高機能素材」を掲載しました。
2015.3.24 KASEN TOPICS Vol.21「繊維の未来」を掲載しました。
2015.3.23 菅野さんが「大発見！化学せんいのゆちから」が本協会ホームページでも読めるようになりました。
2015.1.30 KASEN TOPICS Vol.21「高機能素材」を掲載しました。

会員検索
会員企業
化学繊維の用語集
2016年版 経緯ハンドブック
先端繊維素材サイエンスシアター
化学せんい ゆちから
KASEN TOPICS
化学繊維技術開発データベース
化学繊維技術改善研究会
繊維関連機関リンク
お問合せ・ご意見

ニュース | 統計資料 | よくわかる化学せんい | 未来をつくる化学せんい | 日本化学繊維協会について

お問い合わせ サイバックス 広報関係者・学生・マスコミ

Copyright (C) Japan Chemical Fibers Association

この1冊があなたの仕事を助けます。
業界人必携の最新繊維データバンク

- 日本と世界の繊維原料からテキスタイル、アパレル、消費まで、特に発展する東アジアのデータを充実
- 全繊維、全加工段階を網羅・収録

2016年版

繊維ハンドブック

<http://www.jcfa.gr.jp/>

「繊維ハンドブック」(統計資料集)も
Web からご注文いただけます。



つぎは、どんな未来に化けようか。

ミラバケツソを知っていますか？ それは、ミラいにバケる新ソ材。

世のため人のためになる新しい価値をもった製品のこと。

私たちは、これまでもたくさんのミラバケツソを創ってきました。

その始まりは、国産技術による初の合成繊維「ビニロン」とその原料樹脂「ポパール」。

そして、現在進行形のミラバケツソも。耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉、

アクリル系熱可塑性エラストマー〈クラリティ〉など。どちらもクラレだけの

オンリーワン製品です。ミラバケツソの1つ1つが、どんな未来に化けていくのか。

創っている私たちでさえ・・・うん、楽しみです。

株式会社 クラレ

〒100-8115 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル TEL.03-6701-1000 (代表) www.kuraray.co.jp/

未来に化ける新素材

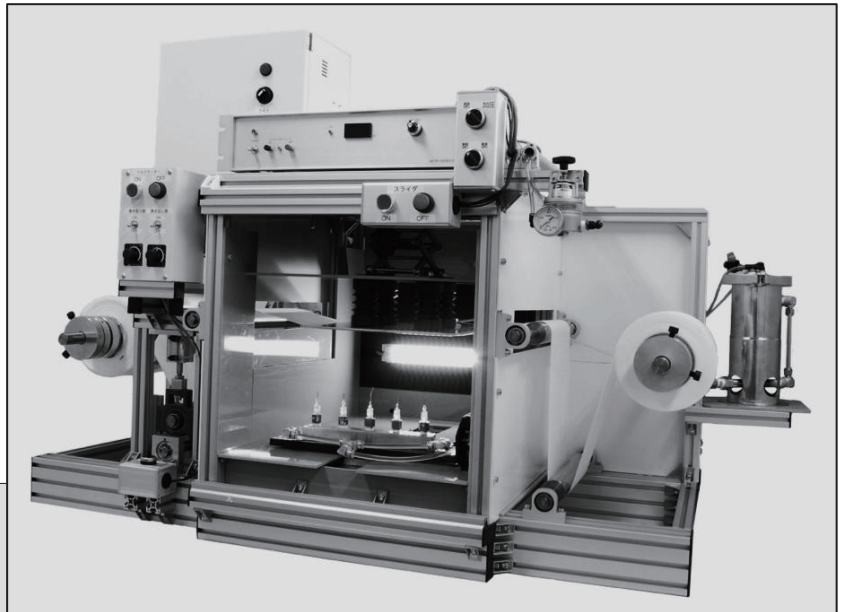
kuraray

ナノファイバー プロダクションシステム for Lab.

本機はマルチノズルタイプの卓上型エレクトロスピニング装置です。

最大 300mm幅の基材に対し、巻出し巻き取り機構を備えることで連続的なナノファイバー不織布を製造することが可能です。

種々のカスタマイズを必要とするご研究者が求めるシンプルで操作性に優れた装置を実現しました。



主な特徴

シンプル

卓上タイプで扱いやすく、操作性に優れています。

フレキシブル

紡糸はマルチノズルスイング方式を採用し、ノズル数・間隔、スイング幅・速度、および送り速度を可変とすることにより目的に沿った柔軟な設定が可能です。

ユニフォーム

ノズル方式により繊維径と膜の均一性が高く、さらに紡糸方向を下から上方向にすることで液垂れ等による成膜物への汚れの心配がありません。

その他の関連商品

- * ナノファイバー試作請負
- * ニット + ナノファイバー生地
- * ナノファイバー素材
- * ナノファイバーマスク
- * ナノ単繊維力学強度試験機

販売元

株式会社ナノア

東京都立川市柴崎町 2-5-3 SOHO プラザ 207

お問合せ先 042-512-8002

URL: <http://www.nanoah.co.jp>

製造元

株式会社ナフィアス

長野県上田市常田 3-15-2

信州大学繊維学部 Fii 棟内 4F

URL: <http://www.nafias.jp>

熔融紡糸の原点

「Nylon」新紡糸技術の誕生と足跡

● 著者：小野 輝道

(元 東レ(株) 専務取締役 技術センター所長)

● 発行：株式会社 繊維社 企画出版
https://www.sen-i.co.jp

● A5判 160ページ カバー巻き

● 販売 2,900円

(本体 2,500円+税 200円+送料 200円)

繊維学会誌 連載記事を単行本化！！

鞠谷 雄士 先生「発刊に寄せて」より

(一般社団法人 繊維学会 会長)

……『熔融紡糸の原点』と題する本書は、この合成繊維を熔融紡糸して繊維化する技術の開発経緯を克明に論じたものであり、1930年代の米国におけるDuPont社によるナイロン66繊維「nylon」の開発(第1章)、これを追う形で行われたドイツにおけるI.G.社によるナイロン6繊維「Perlon」の開発(第2章)、そして終戦直後の日本における東レによるナイロン6繊維「Amilan」の開発と事業化(第3章)から構成されている。

著者の小野輝道氏は1949年に東レに入社され、その後20年間、ナイロン6の開発に携わられた。本書は、熔融紡糸による繊維製造技術開発の歴史を紐解くところに主眼が置かれているが、現場を隅から隅まで知り尽くした者だけが把握することのできる技術の細部が、原特許の図面、豊富な写真資料などとともに記述されており、長年、熔融紡糸を自身の研究テーマとしている私にとっては、その内容の迫力に圧倒される思いである。そして、資料集めの経緯・苦労話から、貴重な情報が国内のみならず国際的な人と人とのつながりにより同氏の元に集約されたことを知り、大いに感服した次第である。……

……本書は、少しでも熔融紡糸技術に係わったことのある方にとって必携の書であることはいまでもないが、繊維に係わりのある方、繊維材料に興味を持たれている方、さらには、技術的な詳細はともかく合成繊維の開発・工業化という歴史的偉業がどのような経緯でなされたかに関心がある方にとっても、本当におもしろい本であると太鼓判を押すことができる。

本書の内容

・「熔融紡糸の原点」発刊に寄せて

……………鞠谷 雄士

(一般社団法人 繊維学会 会長)

はじめに

第1章 DuPont社 (U.S.A)

- 1.1 DuPont社のFundamental ResearchとW.H.Carothers
- 1.2 Carothers、DuPont社へ入社
- 1.3 Serendipity
- 1.4 Polyamideへの挑戦
- 1.5 Nylon糸の開発へ

1.5.1 序

1.5.2 開発の経過

- (1) 中間体
- (2) Polymer
- (3) 製 糸

- 1) 実施例1からの抜粋
- 2) N₂ガスのO₂含量 (content)
- 3) #2 spinner
- 4) Sand Filter
- 5) Fiber WとBristle
- 6) ローソク紡糸機
- 7) Glass Melter
- 8) 用途開発とPilot Plant
- 9) Flat Coil Melt Gridの登場
- 10) Steam Conditioner

1.5.3 ヴェールを脱ぐNylon

補 遺

- (1) Nylon yarn “A” Bonus
(1941年6月11日、C. H. Greenewalt)について
- (2) ポンプと口金
- (3) Nylon Yarn開発Project発足
(1935年央)以後のW. H. Carothers

1.6 結 び

第2章 「Perlon」の開発

(ドイツのpolyamide繊維)

2.1 「Perlon」の誕生

2.1.1 序

2.1.2 Nylonの誕生と「Perlon」のcatch up

2.1.3 VK法の誕生とMO処理

2.2 ドイツにおけるNylon繊維事業

2.3 総 括

補 遺

第3章 「Amilan」の開発

(日本のpolyamide繊維)

3.1 序

3.2 戦時中のNylon研究

3.3 戦後のNylon開発の再開

3.4 Nylon繊維生産の開始

(滋賀第3工場)

(1) 紡糸機

(2) MO抽出

(3) 延 伸

3.5 新工場の建設へ

3.6 愛知工場の生産プロセス (1951~1959)

3.6.1 紡 糸

(1) 原料チップ

(2) 紡糸用チップ (高周波乾燥)

(3) 紡糸機

3.6.2 水 洗

3.6.3 延伸以降

補 遺

(1) 統計的手法

(2) 測定技術

(特徴のあるものをピックアップ)

(3) nylonの潜在能力の発掘

(4) その他

後 記

おわりに

索 引

HP

リニューアル

繊維技術データベース開始しました！！

迅速・安価 — 入門・教育用に、新商品・新技術開発にご活用下さい。



● お申し込みは — 電話 / HP / E-mail で
株式会社 繊維社 企画出版

〒541-0056

大阪市中央区久太郎町1-9-29 (東本町ビル5F)

Tel. (06) 6251-3973 Fax. (06) 6263-1899

E-mail: info@sen-i.co.jp https://www.sen-i.co.jp



繊維学会誌

平成28年3月 第72巻 第3号 通巻 第840号

目 次

時 評	パスツールへの想い	下坂 誠 P-147
特 集	〈防 虫〉 疾病媒介蚊の現状とその防除における問題点	川田 均 P-148
	防虫機能を衣料に付与する研究開発	平岡 浩佑 P-155
	「JIS L 1920 繊維製品の防ダニ性能試験方法」について	西川 翔子・豊田 正博 P-159
連 載	〈業界マイスターに学ぶせんいの基礎講座－18〉 第7編 アパレル製品の基礎知識	相馬 成男・上田 良行 P-165
繊維学会創立70周年記念連載	〈技術が支えた日本の繊維産業－生産・販売・商品開発の歩み－30〉 染色加工業の盛衰(9)	松下 義弘 P-186
レポート	2016 学術ミキサー 報告書	2015 年度企画委員会 P-197
海外ニュースレター		P-198



Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 72, No. 3 (March 2016)

Contents

Foreword

Tribute to Pasteur

Makoto SHIMOSAKA P-147

Special Issue on Insect Repelling

The Present Condition of Disease Vector Mosquitoes and Difficulties in Vector Control

Hitoshi KAWADA P-148

Research and Development of Adding Insect-Repellent-Function to Clothes

Kosuke HIRAOKA P-155

About the “JIS L 1920 : Testing Methods for Efficacy against
House Dust Mite of Textiles”

Shoko NISHIKAWA and Masahiro TOYOTA P-159

Series on Fiber Basic Course Lectured by Professional Engineers-18

Basic Knowledge of Apparel

Shigeo SOHMA and Yoshiyuki UEDA P-165

Series of Historical Reviews of Japanese Textile Industry Supported by the Technology

—History of the Production, Sales, and Product Development—30

Rise and Fall of Textile Dyeing Processing Industries (9)

Yoshihiro MATSUSHITA P-186

Report

The Report of the New Year's Mixer in 2016

Planning Committee 2015 P-197

Foreign News Letter

P-198



Journal of Fiber Science and Technology (JFST)

Vol. 72, No. 3 (March 2016)

Transactions / 一般論文

- ❖ Development of New Functional Composites from Onion and Short Natural Fibers
Ruoyuan Song, Xiaoni Cheng, Laijiu Zheng, Yongfang Qian, Xiao Wang, and Teruo Kimura 61
- ❖ 表面コーティングによりクレージングを制御した電池セパレータフィルム
内藤 圭史・武野 明義・山田 将人・高橋 紳矢 66
Control of Craze Process by Surface Coating on the Film as Battery Separators
Keishi Naito, Akiyoshi Takeno, Masato Yamada, and Shinya Takahashi

Note / ノート

- ❖ Radical Copolymerization of Ferulic Acid Derivatives with Ethylenic Monomers
Hong Sun, Yoon Deuk Young, Shinji Kanehashi, Kousuke Tsuchiya, Kenji Ogino, and Jae-Ho Sim 74

繊維学会論文誌“Journal of Fiber Science and Technology (JFST)”

毎月の目次と抄録を繊維学会誌に掲載して参ります。本文はJ-Stageでご覧になれます。繊維学会のホームページ「学会誌・出版」から、また直接下記のアドレスにアクセスしてください。

英語: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst>

日本語: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst/-char/ja/>

JFSTはどなたでも閲覧は自由で認証の必要はありません。但し、著作権は繊維学会に帰属されます。

Journal of Fiber Science and Technology 編集委員 Journal of Fiber Science and Technology, Editorial Board

編集委員長 Editor in Chief	髪 谷 要 (和洋女子大学大学院) Kaname Katsuraya	編集副委員長 Vice-Editor	塩 谷 正 俊 (東京工業大学大学院) Masatoshi Shioya
編集委員 Associate Editors	上高原 浩 (京都大学大学院) Hiroshi Kamitakahara	河 原 豊 (群馬大学大学院) Yutaka Kawahara	木 村 邦 生 (岡山大学大学院) Kunio Kimura
	久保野 敦 史 (静岡大学) Atsushi Kubono	澤 渡 千 枝 (静岡大学) Chie Sawatari	高 寺 政 行 (信州大学) Masayuki Takatera
	武 野 明 義 (岐阜大学) Akiyoshi Takeno	趙 顯 或 (釜山大学校) Hyun Hok Cho	登 阪 雅 聡 (京都大学) Masatoshi Tosaka
	花 田 美和子 (神戸松蔭女子学院大学) Miwako Hanada	久 田 研 次 (福井大学大学院) Kenji Hisada	菅 井 清 美 (新潟県立大学) Kiyomi Sugai
	山 根 秀 樹 (京都工業繊維大学大学院) Hideki Yamane	吉 水 広 明 (名古屋工業大学大学院) Hiroaki Yoshimizu	

Development of New Functional Composites from Onion and Short Natural Fibers

Ruoyuan Song^{*1}, Xiaoni Cheng^{*1}, Laijiu Zheng^{*1},
Yongfang Qian^{*1}, Xiao Wang^{*1}, and Teruo Kimura^{*2}

^{*1} School of Textile and Material Engineering, Dalian Polytechnic University, Dalian 116034, China

^{*2} Division of Advanced Fibro-Science, Kyoto Institute of Technology, Matsugasaki Goshokaidocho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8585, Japan

In this study, the waste onion was chosen and used as the matrix material, and the bamboo pulps and tussah silk fibers were used as reinforcing materials. By efficient mixing process, a new type bio-composite with excellent mechanical and antibacterial properties was developed by papermaking method. The tensile property and antibacterial action were studied in detail. The consequence indicated that the onion had definite matrix property, and the mechanical properties were further improved by adding bamboo pulps and tussah silk fibers. With the fiber content increasing, the tensile properties of composites increased, and the tussah silk/onion composite exhibited the better tensile properties than that of bamboo/onion composite. The flavonoids extracted from abandoned onion skins can be used as the antibacterial finishing agent to improve the inhibition property of the tussah silk/onion composite. The experiment consequence indicated that the finished composite had a certain antibacterial action against *Staphylococcus aureus* and *Escherichia coli*. **J. Fiber Sci. Technol.**, 72(3), 61-65 (2016) doi 10.2115/fiberst.2016-0010 ©2016 The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Control of Crazeing Process by Surface Coating on the Film as Battery Separators

Keishi Naito^{*1}, Akiyoshi Takeno^{*1},

Masato Yamada^{*1}, and Shinya Takahashi^{*1}

^{*1} Faculty of Engineering, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

A porous polypropylene (PP) film was fabricated by an original crazeing process using bending. The film has a lot of porous layers which are independent each other, and has possibility to apply as a Li-ion battery separator. Moreover, we paid attention that a craze is generated from the outer surface of the bending part during the crazeing process. Therefore, the outer surface of the bending part of PP film was coated with polystyrene or polymethylmethacrylate, and the crazeing process was carried out. As a consequence, it was revealed that the composite structure of the craze could be controlled by surface coating of polymer which has lower craze-generating stress than

PP. And its composite structure derived from that of the coated layer. By this method, a separator film which has many more porous layer and high gas permeability was fabricated. **J. Fiber Sci. Technol.**, 72(3), 66-73 (2016) doi 10.2115/fiberst.2016-0011 ©2016 The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Radical Copolymerization of Ferulic Acid Derivatives with Ethylenic Monomers

Hong Sun^{*1}, Yoon Deuk Young^{*1}, Shinji Kanehashi^{*1},
Kousuke Tsuchiya^{*1}, Kenji Ogino^{*1}, and Jae-Ho Sim^{*2}

^{*1} Graduate School of Bio-Applications and Systems Engineering, Tokyo University of Agriculture and Technology, 2-24-16 Nakacho, Koganei-shi, Tokyo 184-8588, Japan

^{*2} Department of Advanced Material and Chemical Engineering, Faculty of Engineering, Halla University, 28 Halladae-gil, Wonju, Gangwon 220-712, Korea

Bio-based ferulic acid (FA), (*E*)-3-(4-hydroxy-3-methoxyphenyl)prop-2-enoic acid was converted to 1,2-disubstituted ethylenic monomer (FA1) via methyl esterification followed by silylation with *tert*-butyldimethylsilyl chloride. Radical copolymerization of FA1 with styrene (St), methyl methacrylate (MMA), and 4-acetoxy-3-methoxystyrene (FA2) prepared from FA were carried out using azobisisobutyronitrile as an initiator at 80°C. It is found that FA1 was copolymerized with St and FA2, but not with MMA. The formation of copolymers was confirmed by ¹H- and ¹³C-NMR analyses. The reactivity ratios of FA1 and St estimated by the Fineman-Ross method are $r_{FA1}=0.12$ and $r_{St}=2.46$. In the case of the copolymerization of FA1 with FA2, the reactivity ratios, $r_{FA1}=0.13$ and $r_{FA2}=2.66$ were determined. **J. Fiber Sci. Technol.**, 72(3), 74-79 (2016) doi 10.2115/fiberst.2016-0012 ©2016 The Society of Fiber Science and Technology, Japan

会告 2016

The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 72, No. 3 (March 2016)

開催年月日	講演会・討論会等開催名(開催地)	掲載頁
28. 3. 18(金) 19(土)	プラスチック成形加工学会 第20回 春季セミナー～早春の北陸で語り、学ぶ成形加工～(能美市・北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究所入口)	A3
4. 2(土) ～6. 11(土) (土曜日7回)	JTCCのTES(繊維製品品質管理士)受験講習会(大阪会場)(大阪市・大阪産業創造館)	A3
4. 2(土) ～6. 4(土) (土曜日7回)	JTCCのTES(繊維製品品質管理士)受験講習会(名古屋会場)(名古屋・愛知県産業労働センター)	A3
4. 9(土) ～6. 18(土) (土曜日7回)	JTCCのTES(繊維製品品質管理士)受験講習会(福岡会場)(博多市・JR博多シティ会議室10階)	A3
5. 8(日) ～6. 25(土) (土曜日または日曜日7回)	JTCCのTES(繊維製品品質管理士)受験講習会(東京会場)(東京都・タワーホール船堀及び江東区文化センター)	A3
5. 12(木) 13(金)	界面コロイドラーニングー 第32回現代コロイド・界面化学基礎講座ー(関東)(東京都・化学会館)	A4
5. 19(木)	文部科学省科学研究費新学術領域研究「元素ブロック高分子材料の創出」第8回公開シンポジウム(東広島市・東広島芸術文化ホールくらら 小ホール)	A3
6. 1(水) 7. 6(水) 8. 3(水) 9. 7(水) 10. 5(水) 11. 2(水)	第21講「研究開発リーダー実務講座2016」～企業の未来を担う理想の研究開発リーダー像とは?～(大阪市・大阪科学技術センター)	A4
6. 2(木) 3(金)	第21回製紙技術セミナー「最新抄紙技術ーダライヤーからリールまでー」(東京都・タワーホール船堀 小ホール)	A3
6. 8(水) ～10(金)	平成28年度繊維学会年次大会 研究発表会・ポスター 発表募集(東京都・タワーホール船堀)	平成28年1月号
6. 13(月)	プラスチック成形加工学会 第153回 講演会「射出成形現象の可視化と体系化」～東京大学生産技術研究所 横井秀俊教授のスペシャルセミナー～(東京都・タワーホール船堀)	A3
6. 14(火) 15(水)	プラスチック成形加工学会 第27回年次大会～構造・物性制御の要! 究(きわ)め、極(きわ)める成形加工!～(東京都・タワーホール船堀)	A3
6. 16(木) 17(金)	界面コロイドラーニングー 第32回現代コロイド・界面化学基礎講座ー(関西)(大阪市・大阪工業大学うめきたナレッジセンター)	A4
6. 16(木) ～18(土)	第54回日本接着学会年次大会 今回は、ACA(Asian Conference on Adhesion)2016と併催(東京都・東京工業大学大岡山蔵前会館)	A4
	繊維学会誌広告掲載募集要領・広告掲載申込書	平成22年6月号
	繊維学会定款(平成24年4月1日改訂)	平成24年3月号
	Individual Membership Application Form	平成24年12月号
	繊維学会誌報文投稿規定(平成24年1月1日改訂)	平成26年1月号
	訂正・変更届用紙	平成26年3月号

「繊維学会誌」編集委員

編集委員長	土田 亮(岐阜大学)								
編集副委員長	髭谷 要(和洋女子大院)	出口 潤子(旭化成せんい(株))							
編集委員	植野 彰文(KBサーレン(株))	大島 直久(東海染工(株))	金 翼水(信州大学)	小寺 芳伸(三菱レイヨン(株))					
	澤田 和也(大阪成蹊短期大学)	高崎 緑(京都工芸繊維大院)	田村 篤男(帝人(株))	寺本 喜彦(東洋紡(株))					
	西田 幸次(京都大学化学研究所)	西村 高明(王子ホールディングス(株))	増田 正人(東レ(株))	村上 泰(信州大学)					
	吉田 耕二(ユニチカトレーディング(株))								
顧問	浦川 宏(京都工芸繊維大院)								

平成28年度繊維学会主要行事予定

行 事 名	開 催 日	開 催 場 所
平成 28 年度 総会・年次大会	平成28年 6 月 8 日(水)～6 月10日(金)	タワーホール船堀 (東京都江戸川区船堀)
平成 28 年度 繊維の基礎講座	平成28年 6 月30日(木)～7 月 1 日(金)	東工大蔵前会館 ロイヤルブルーホール
第 46 回夏季セミナー	平成28年 7 月19日(火)～21日(木)	福井市 福井県民ホール「アオッサ」
平成 28 年度 秋季研究発表会	平成28年 9 月20日(火)、21日(水)	山形大学工学部(米沢市)

平成 28 年度分 正会員年会費自動引落日のご連絡

年会費の自動引落しをお申込み頂いています正会員の皆様の口座からの年会費の自動引落日は
平成 28 年 4 月 25 日(月)

になりますのでご通知申し上げます。

繊維学会論文誌 “Journal of Fiber Science and Technology” のオープンアクセス化と著作権の取り扱いについて

繊維学会では今般の学会誌の刷新に伴い論文誌を Journal of Fiber Science and Technology (JFST) としてリニューアル致しました。これに伴いより積極的な情報発信を指向し、どなたでも閲覧できるオープンアクセス方式に切り換えております。ここで我々が使用したオープンアクセスの解釈は狭義にはフリーアクセスとされる「閲覧自由」という理解であり、二次利用まで開放するという意味ではありません。

現在、オープンアクセスにおける著作権譲渡の取り扱いおよび公開情報の二次利用については、Creative Commons 準拠等の活発な議論が行われております。

本学会でも常に時代に対応したルールによる運用を目指して、この問題を慎重に検討しておりますが、Creative Commons の普及状況等を考慮すると、現在は中長期的判断の非常に難しいタイミングであると考えています。

従って、当面本学会ではこれまで通り著者様から著作権譲渡を頂き、掲載内容の二次利用については著作権保護の立場から一般社団法人学術著作権協会に著作権管理および利用許諾業務を委託して参ります。

各位におかれましては JFST 掲載の著作物をご使用頂く場合は、この点をご理解いただき適切にご対応頂きますようお願い申し上げます。

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、公益法人日本複製権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

(一社)学術著作権協会

TEL : 03-3475-5618、FAX : 03-3475-5619

E-mail : info@jaacc.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone : 1-978-750-8400 FAX : 1-978-646-8600

JTCC の TES(繊維製品品質管理士) 受験講習会

TES 本試験の対象となる全領域について、各分野の専門技術士が担当して講義を行います。難関とされる事例解析と論文の指導を特に充実させるべくカリキュラムを編成しており、全講義が終了したのちに、本試験と同じ要領で模擬試験を行い、解析と添削指導を行います。

主 催：(一社)日本繊維技術士センター(JTCC)

講習会開催日時および会場：

- (1) 大阪会場
平成 28 年 4 月 2 日～6 月 11 日(土曜日 7 回)
会場：大阪産業創造館
- (2) 名古屋会場
平成 28 年 4 月 2 日～6 月 4 日(土曜日 7 回)
会場：愛知県産業労働センター(ウインクあいち) 会議室
- (3) 東京会場
平成 28 年 5 月 8 日～6 月 25 日(土曜日または日曜日 7 回)
会場：タワーホール船堀及び江東区文化センター
- (4) 福岡会場
平成 28 年 4 月 9 日～6 月 18 日(土曜日 7 回)
会場：JR 博多シティ会議室 10 階

費用などの詳細情報については JTCC ホームページを参照ください。

問合せ先：

JTCC 本部

〒541-0051 大阪市中央区備後町 3 丁目 4 番 9 号
輸出繊維会館 6 階

TEL: 06-6484-6506 FAX: 06-6484-6575

JTCC 東海支都

〒460-0008 名古屋市中区大須 1 一丁目 35 番 18 号
一光大須ビル 7 階(中部科学技術センター内)

TEL: 052-231-3043 FAX: 052-204-1469

JTCC 関東支部

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 12-9
滋賀ビル 5 階

TEL: 03-5643-5112 FAX: 03-5614-0103

プラスチック成形加工学会 第 20 回 春季セミナー ～早春の北陸で語り、学ぶ成形加工～

主 催：プラスチック成形加工学会

日 時：平成 28 年 3 月 18 日(金)、19 日(土)

集合場所：北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究所入口
(石川県能美市旭台 1-1
TEL: 0761-51-1623 山口研究室)

プラスチック成形加工学会 第 153 回 講演会 「射出成形現象の可視化と体系化」 ～東京大学生産技術研究所 横井秀俊教授のスペシャルセミナー～

主 催：プラスチック成形加工学会

日 時：平成 28 年 6 月 13 日(月)

場 所：タワーホール船堀 2F 桃源
(東京都江戸川区船堀 4-1-1)

プラスチック成形加工学会 第 27 回 年次大会 ～構造・物性制御の要！究(きわ)め、 極(きわ)める成形加工！～

主 催：プラスチック成形加工学会

日 時：平成 28 年 6 月 14 日(火)、15 日(水)

場 所：タワーホール船堀(江戸川区総合区民ホール)
(東京都江戸川区船堀 4-1-1
TEL: 03-5676-2211)

問合せ先：(一社)プラスチック成形加工学会 事務局
〒141-0032 東京都品川区大崎 5-8-5
グリーンプラザ五反田第 2-205
TEL: 03-5436-3822

文部科学省科学研究費新学術領域研究 「元素ブロック高分子材料の創出」 第 8 回公開シンポジウム

主 催：「元素ブロック高分子材料の創出」総括班

共 催：「感応性化学種が拓く新物質化学」総括班

日 時：平成 28 年 5 月 19 日(木) 12:45～17:15

場 所：東広島芸術文化ホールくらら 小ホール

プログラム：特別講演(2 件)、研究発表(6 件)

シンポジウムの参加料は無料です。詳細は、HP
(<http://element-block.org>)をご参照ください。

第 21 回製紙技術セミナー 「最新抄紙技術 ― ダライヤーから リールまで ―」

主 催：紙パルプ技術協会(JAPAN TAPPI)

日 時：平成 28 年 6 月 2 日(木)、3 日(金)

場 所：タワーホール船堀 小ホール
(東京都江戸川区船堀 4-1-1
TEL: 03-5676-2211)

プログラム：特別講演(2 件)、サプライヤー講演(10 件)、製紙会社事例発表(3 件)

詳細は、HP(<http://www.japantappi.org>)をご参照ください。

問合せ先：紙パルプ技術協会

(東京都中央区銀座 3-9-11)

紙パルプ会館 11 階)

TEL: 03-3248-4841

担当) 佐 治 saji@japantappi.org

川久保 kawakubo@japantappi.org

第 54 回日本接着学会年次大会 今回は、ACA(Asian Conference on Adhesion)2016 と併催

主 催：日本接着学会

日 時：平成 28 年 6 月 16 日(木)、17 日(金)、18 日(土)

場 所：東京工業大学大岡山蔵前会館

(東京都目黒区大岡山 2-12-1)

プログラム：口頭発表(英語・日本語)、ポスターセッション、総会、懇親会等

問合せ先：(一社)日本接着学会事務局

TEL: 06-6634-7561

第 21 講 「研究開発リーダー実務講座 2016」 ～企業の未来を担う理想の研究 開発リーダー像とは?～

主 催：近畿化学協会

日時 & プログラム：

第 1 回 6 月 1 日(水) 研究開発リーダーのあり方

第 2 回 7 月 6 日(水) ものづくりと技術者倫理

第 3 回 8 月 3 日(水) 人材の育成

第 4 回 9 月 7 日(水) 知財の活用と事業戦略

第 5 回 10 月 5 日(水) イノベーションと変革

第 6 回 11 月 2 日(水) R&D のマネジメント

場 所：大阪科学技術センター 7 階 700 号室

(大阪市西区靱本町 1-8-4)

申込 & 問合せ先：

(一社)近畿化学協会

「研究開発リーダー実務講座」係

大阪市西区靱本町 1-8-4

大阪科学技術センター 6 階

TEL: 06-6441-5531

E-mail: seminar@kinka.or.jp

界面コロイドラーニング ー 第 32 回現代コロイド・ 界面化学基礎講座 ー

主 催：(公社)日本化学会 界面化学部会

開催日時 & 会場：

(関東)平成 28 年 5 月 12 日(木)、13 日(金)

化学会館(東京都千代田区神田駿河台 1-5)

(関西)平成 28 年 6 月 16 日(木)、17 日(金)

大阪工業大学うめきたナレッジセンター

(大阪市北区大深町 3-1)

プログラム等詳細は、

東京

<http://colloid.csj.jp/event/basic/tokyo-2016.pdf>

大阪

<http://colloid.csj.jp/event/basic/osaka-2016.pdf>

をご参照ください。

正会員の皆様へメールアドレス登録のお願い

ご高承の通り、昨今、情報提供のための環境は大きく変化し、伝達ツールはその利便性から電子メールに代表される電子媒体が主なものになってきております。さらに伝えるべき情報量も増大している現状があります。本学会におきましても、各種情報を電子メールで提供したい、もしくは受領したいとの要望が多くなってきており、メールによる情報一斉配信(繊維学会本部行事のご案内など)は重要な会員サービスと考えられますので、会員の皆様の情報のご提供をお願いいたします。

なお、提供者の意志に基づいてご提供いただいた情報(またはその更新)につきましては、事務局と連携し HP 担当理事が責任を持って行うものといたします。また、繊維学会プライベートポリシーに則って、本人の同意なく第三者へ開示提供することはありません。

具体的な作業について説明いたします。

- 1) テンプレートとなるエクセルファイル(mail-template.xls)を繊維学会ホームページ(<http://www.fiber.or.jp/>)からダウンロードしてください(ダウンロードができない、またはご希望の場合は、その旨を「member-inform@fiber.or.jp」までお伝えください。添付ファイルで返送いたします)。
- 2) 必要事項をご記入後、ファイル名を「会員番号(12 桁の数字のほうでお願いします).xls」と変えて保存してください。12 桁の会員番号は学会誌の発送宛名シールに記載されております(例：00000xxxxx00)。
- 3) 作成したファイルを「member-inform@fiber.or.jp」までご送付ください。

なお、疑問点がございましたら、上記アドレスまでお問い合わせください。